学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区
目白1丁目5番1号
黎明会館316号室
電話 03（3986）0221内線2607
http://www.geocities.jp/
gakushuinpress/index.html
発行・編集人　和田恵理子
年間500円

# 積極的に課外活動を援助

## 56団体に交付

## 平成21年度助成金

平成21年度学習院課外活動助成金の一つである、特別助成金が交付された。今年度交付が行われたのは昨年度と同じ56団体で、全団体の平均額は16万2964円となり、昨年度より約2000円減少。それでも各団体にとっては大きな援助となった。

本院では、一貫教育の発展に寄与するため、学内外の課外活動の支援を目的に、助成を行っている。これは、父母会及び卒業生諸団体の協力を得て、平成元年度に「学習院課外活動助成基金」創設が決まったものだ。その後、平成2年度から「同基金特別会計規定」に基づき、援助活動をしている。平成8年度には、「特別補助制度」として、全院的な活動、行事や海外交流等へ特別に助成する制度を創始した。

今年度の方針としては、特色ある行事、活動を計画している学校諸団体に重きを置き、支援を行っていく。ここで述べられている課外活動とは、本院の各学校におけるスポーツ活動及び文化活動での正規の授業、教科学習、学校行事以外のものを指す。

学習院課外活動助成金の種類は特別助成金、指定助成金の二つ。交付要件は四つあり、

①本院の学校間にわたる共同の課外活動行事

②卒業生・在学生共同の課外活動行事

③初等科から高等科までの課外活動で、本院の大学生または卒業生のコーチを付する活動

④学習院課外活動助成委員会で特に助成金の交付を認めた活動

となっている。

特別助成金は、前記の四つの交付条件のいずれかを満たし、行事計画書を提出した学校または団体が対象とされるのだ。それらの学校、団体に対し、課外活動助成基金の運用果実及び使途先を指定しない、個人などからの助成寄付金を元にした資金から支出される。

指定助成金は、あらかじめ提出された事業計画書に沿って、個人などからの指定寄付金を元にした資金から交付。こちらも、前記四つの交付要件を満たし、また特定の学校または団体を活動助成する目的である。

ここで取り上げた課外活動助成金以外にも、輔仁会激励金、課外活動助成費、父母会助成金、桜友会輔仁会課外活動に対する助成金などが存在する。全国大会出場といっためざましい成績を収めた運動部や、学生共有使用の備品の購入によっては、助成金が支援されるものもあるのだ。なお、特別助成金を受け取った各団体は、表の通り。

### 平成21年度特別助成金交付団体一覧

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. スカッシュ部 | 15. フェンシング部 | 29. 馬術部 | 43. 音楽愛好会 |
| 2. ホッケー部 | 16. 卓球部 | 30. 陸上競技部 | 44. 書道部 |
| 3. アイススケート部 | 17. 航空部 | 31. 排球部 | 45. 陶芸研究会 |
| 4. ラグビー部 | 18. ハンドボール同好会 | 32.サッカー部 | 46. 史学部 |
| 5. 射撃部 | 19. 弓道部 | 33.トランポリン部 | 47. 学生相談所 |
| 6. 硬式庭球部 | 20. 水上スキー部 | 34. 自転車愛好会 | 48. 音楽部 |
| 7. 自動車部 | 21. ウィンドサーフィン愛好会 | 35. スキー部 | 49. 輔仁会雑誌編集委員会 |
| 8. ソフトボール部 | 22. ヨット部 | 36. ゴルフ部 | 50. 放送研究部 |
| 9. ソフトテニス部 | 23. 準硬式野球部 | 37. 国劇部 | 51. アナウンス研究会 |
| 10. ボウリング部 | 24. 合気道部 | 38. 漫画研究会 | 52. スカイサウンズジャズオーケストラ部 |
| 11. 少林寺拳法部 | 25.トライアスロン同好会 | 39. 英語部 | 53. ダンスアプローズ |
| 12. 剣道部 | 26. ウェイトトレーニング愛好会 | 40. 茶道部 | 54. 応援団 |
| 13. 漕艇部 | 27. 硬式野球部 | 41. 学生放送局 | 55. 馬術部（全体） |
| 14. アメリカンフットボール部 | 28. 籠球部 | 42. 大学新聞社 | 56. 剣道部（全体） |

---

# 学習院 研究最前線

学問研究の「いま」

鷲尾龍一教授

PROFILE
マサチューセッツ工科大学客員研究員、高麗大学招請教授、中国社会科学院客員研究員、国立国語研究所特別研究員などの研究歴がある。筑波大学大学院教授を経て、2008年4月より本学教授。

◇　　◇　　◇

先生は、主に言語の比較研究をなさっています。言語を比べることの意義を中心にお話を伺いました。

（取材・構成　板垣亮平）

## 「多言語比較から見える世界」

### 文学部日本語日本文学科　鷲尾龍一教授

## 普遍性と個別性の狭間で

**日本語への興味と研究のきっかけ**

先生は日本語が昔から関心の中心にあり、現在も研究の基軸になっているという。研究には、日本語だけを探求する道もあったはずだ。だが、多言語比較というスタイルに至ったのは、子どもの頃の環境が大きかったかもしれない、と語る。

「祖父は大学の蒙古語学科を出て、唐詩などにも造詣が深い人でした。少年時代、私はこの祖父から話を聞くのが大好きで、チャイジョゴロー（お茶を召し上がれ）などのモンゴル語を教えてもらうと、面白がって呪文のように唱えていました。チャイが『お茶』を意味し、これが中国語でもチャであって、英語のteaもチャと関係がある、などと聞かされると、何か神秘的な世界に足を踏み入れたような気がして、勝手な想像が頭の中で暴走するような感覚がありました。後年、日本語について考え始めた際、多言語比較という手法が自分にとって自然であったのは、子どもの頃のこうした経験や、欧米からの客が多かった実家の環境なども影響していたような気がします」

**日本語の「真の特殊性」とは**

言語比較の例として、先生は身近な日本語を挙げた。そこからは複数の言語を比べることの重要性が見えてくる。

「日本語は特に風変わりな言語ではありません。よく言われる語順にしても、英語やフランス語あるいは漢文など、多くの日本人が学んできた外国語がたまたまSVO型なので、SOV型の日本語は特異であると感じる向きもあります。ですが、モンゴル語や朝鮮語などアジアの諸言語をはじめとして、世界にはSOV型が広く分布していますし、英語も古い時代にはSOVを多用していました。ドイツ語やオランダ語は現在でもSOVが基本です」

様々な言語を見てこそ、世界の中での日本語の位置付けも分かっていく。一方で、真の意味での「日本語の特殊性」に気付くこともあるという。

「日本語では『子どもに泣かれる』のように自動詞を受け身にして使いますが、この種の表現を許容する言語は滅多にありません。私の知る限りでは、中世モンゴル語の文献に類似の構文が見られる程度で、これは日本語を特徴付ける重要な性質であると考えられます」

**言語を比較することの意義**

世界には、五千から六千もの言語があるとされる。多くの言語がある中で、先生は最近の研究において上代の日本語と現代オランダ語を比較したという。この全くかけ離れていると思われる両者に、共通している普遍性を見出したそうだ。

「上代日本語には、完了の助動詞と呼ばれるツ・ヌという形態がありましたが、これらは互いに特別な関係にあって、実に不思議な分布を示します。本居宣長以来、様々な研究がなされてきましたが、私はこれを西欧諸語における二種類の助動詞、とりわけオランダ語のhebben/zijnと比較し、ツ・ヌの選択とhebben/zijnの選択が同じ原理に従っていることを明らかにしました。これまで日本語固有の現象と見なされていたツ・ヌの分布が、実は言語の普遍性を反映していることがわかったのですから、その理論的意義は決して小さくありません。この研究は米国の専門誌に発表したのですが、すでにロシアの博士論文などでも引用されています。言語学という分野が世界レベルの共同作業であることを実感させられます」

世界には多様な言語が存在し、単一の言語を見ただけでは分からないことがある。言語全体を俯瞰し、比較、対照する先生の視点は、言語研究に不可欠だろう。

---

## 学生の一助に

## マスコミ相談室

今年度5月8日から北1号館の2階に、マスコミ相談室が開設されている。開室時間は毎週金曜日の14時40分から16時10分だ。

相談室で学生を迎える尾関謙一郎氏

この相談室は平成18年度まで、南3号館で本学卒業生が専属の相談員となって開催していたが、相談員の都合により一時閉室。その後はキャリアセンターが相談室の代わりとして新聞、放送、広告など複数のマスコミ関係先に就職した卒業生に協力を仰ぎ、セミナーや個別相談を行っていた。

しかし今年になって、マスコミ桜友会の代表幹事を務める尾関謙一郎氏が相談員となり、相談室の再開が決定。マスコミ桜友会とは、新聞から出版、映画まで広い意味のマスコミ業界で活躍する卒業生で組織され、互いの親睦と共に、学生の就職支援を主要な目的としている。ちなみに、昨年まで本学政治学科の特別客員教授であった高島肇久氏が、会長である。発足したのは07年と、新しい組織ではあるが、定期的に催される総会では100名を超える参加があるという。

そのマスコミ桜友会の代表幹事であると共に、本学の非常勤講師であり、読売新聞東京本社にも勤務する尾関氏。相談室ではまず前期に、各々が志す企業の下調べや、志望動機を明確化するなどの基礎固めを行う。そしてそれを軸に、後期では面接の練習や論文作成などの実践に移る。ただの相談だけではなく、現役のマスコミ関係者による作文指導は、就職試験においての強みとなることだろう。

尾関氏は今回のマスコミ相談室の開設にあたり「マスコミを目指す学生に一番必要とされるのは、技能や知識以前に熱意。自分がどれだけマスコミに入りたいかを、アピールすることが重要なのです。そのような熱意を持った学生は是非一度相談室へいらしてください。一人でも多く、希望通りの就職先へ行けるよう、私も尽力します」とコメントした。なお、相談室は原則、キャリアセンターへの事前予約が必要ではあるが、飛び入り参加も可能だそうだ（ただし講師欠席の連絡は予約者のみ）。

---

### 素朴な疑問

## 携帯の電波入ってる？

あれ、電波がない。さっきまでちゃんと立っていたのにどうしてだろう。本学のキャンパスは広いため、場所によって電波の入り方が違うのだろうか。今回は周りの友人の所持率が高かったウィルコム、ドコモ、auの中で最も電波の入りが良い会社を調べてみることに。

早速、普段よく使う西5号館のB1教室に行ってみたところ、面白い結果が出た。教壇に向かって左側の席では、ウィルコムとドコモは圏外であったが、右側の席に移動するとウィルコムが3本、ドコモは1本に回復した。歩くと電波が入ることもあり、何とも不思議である。教室の右側には大きな窓があるため、電波が入りやすいからだろう。

さらに調査を続けるため、普段あまり立ち入ることのない乃木館周辺に行ってみた。すると、ウィルコムとauは感度良好にも関わらず、ドコモは歩いていると徐々に1本になり、理学部棟に着く頃にはとうとう0本に。法経棟に行っても同じ結果となり、大学図書館ではウィルコム、ドコモが圏外になってしまった。auは相変わらず3本のままである。

この調査により、電波力No．1はauに決定した。すごいぞ、au！（織）

---

## 紙面紹介

日差しも強まってきた今日この頃、夏はもうすぐそこである。今年は華やかな花火を眺めて、日本ならではの夏を楽しもう。

### 神のお告げ

合宿の飲み会でお馴染みのおつまみ。目の前にあると手が止まらなくなるもの。帰ったら暫くお菓子は控えよう！　と心に決めた翌日、編集作業を進める片手にはクッキーが……。間食し過ぎるべからず。（神）

---

## 部会室の使用注意

## 黎明会館

近年、黎明会館内部会室の利用状況が非常に悪化している。通常の活動から逸脱した目的外の使用や、昭和53年度から施行されている『黎明会館使用規定』に反した行為が目立つ。特に、以下に挙げる第15条の違反が増加しているのだ。

【第15条　黎明会館および部会室の防火、並びに保健、衛生の健全なる維持のため、火気および必要以上の電気器具の使用、会館内での喫煙・飲酒を禁止する。

一　部会室の清掃、整備は各使用団体ごとに行う。

四　廊下、階段、屋上など共同使用部分に物品を置くことを禁止する】

このように、会館内での喫煙や飲酒、火気の使用は厳禁とされているにも関わらず、違反団体があるのが現状だ。また、粗大ゴミの不法投棄やゴミの散乱、各階水場や会議室利用におけるモラル低下が見受けられる。こうした規約を破った場合、同規定第17条が定めた罰則「注意」「警告」「使用停止」のいずれかが下される。一番重い処分では、当該団体に一定期間部会室および会議室使用停止措置、さらには部会室没収というケースもあるという。

黎運委局長の林英明さん

こうした事態を受け、黎明会館運営委員会局長の林英明さん（済3）は「この部室棟が、皆の共同スペースであるという意識が欠けているように思います。私達も可能であれば、処分という選択肢を取りたくはありません。黎明会館は歴史ある建物ですから、大切に使ってもらいたいですね」とコメントした。

会館内の不法投棄物

---

## 姿を変えた情報発信

### GAKUSHUIN.TV

本院のホームページに「GAKUSHUIN.TV」が設けられた。これは学習院が3分で分かる、というモットーのもとに作られた動画コンテンツで、閲覧の他、投稿も可能だ。現在、波多野院長による本院紹介や、今年の箱根駅伝の様子等が公開されている。

第85回箱根駅伝 川内優輝君の走行シーン

投稿日：2009年01月06日　閲覧数：2,079回　カテゴリ：スポーツ

閲覧数の多い駅伝の動画

開設の理由として、YouTubeに代表される動画サイトの躍進が挙げられる。動画には活字や静止画にはない、臨場感ある情報をタイムリーに伝えられるメリットがあるのだ。そのため、娯楽だけでなく、政党の広報や各企業の宣伝としての利用もされており、影響力は拡大の一途をたどっている。さらに、それを受けて官公庁や大手新聞社等の公式ホームページでも動画による情報発信が行われるようになってきているのだ。この流れを踏まえ、本院が作成したのが「GAKUSHUIN.TV」なのである。

利用の仕方としては、閲覧は自由だが、投稿にはいくつかの手順を踏む必要がある。まずサイト内で申請をすると、投稿画面のURLが記載されたメールが届く。そこから画面の指示に従い投稿。その後に広報課の確認を受けてから、サイト内に公開される。

この「GAKUSHUIN.TV」について、総合企画部広報課長の青崎智子氏に尋ねると、「このサイトは学習院の良さをアピールするための動画サイトです。学生からの投稿はまだありませんが、学生ならではの視点を持った投稿をお待ちしています」と語った。今後、学生の力が加われば、益々の盛り上がりが期待できる。

---

## 5月のお昼はめじおん！

清々しい五月晴れのキャンパスに軽快な音楽が響き渡った。毎年恒例の目白音楽祭（通称・めじおん）である。昼休みに音楽系の部活・サークルがその腕前を披露することで知られるこのイベントは、今年も大いに盛り上がり、演奏者と聴衆が一体となって楽しむ光景が見られた。青空と深緑をバックに奏でられるそのメロディは、初夏の訪れに彩りを添える風物詩といえるだろう。（子）

---

## 明窓浄机

大学進学のために上京して、はや三年目になる。一人暮らしにもすっかり慣れ、東京での学生生活を謳歌している日々だ。それでも、ふと家族のいる故郷が恋しくなることがある▼四人兄弟で、祖父母や曾祖母も同居していた家で育った私は、上京当初は一人での生活が寂しくて堪らなかった。しかし、しばらくすると友人も増え、段々と一人暮らしが楽しくなってくる。それにつれ、家族への電話や帰省の回数も減りつつあった▼そんな私が、家族への想いを新たにした出来事がある。それは、いつも私のことを気にかけ、心配してくれていた曾祖母の突然の死だ。なかなかその事実を受け入れられない程、当時のショックは大きかった。その時に一番強く感じたのは、後悔の念である。曾祖母が元気なうちに、もっと孝行しておけば良かった、もっと感謝の言葉を伝えておくのだった……▼後悔先に立たずだが、そこから学んだこともある。いかに家族の存在がかけがえのないものか、曾祖母は教えてくれた。いつでも「おかえり」と温かく迎えてくれる家族がいることは、何よりも心強い。今、故郷から遠く離れた東京の地で大学生活が送れているのも、私を応援し、支えてくれている家族のお陰だ。東京へ送り出してくれた家族への感謝の気持ちを、常に忘れずにいたい。（香）

---

## 情報特急便

**春の人事**

【昇格】

教授に昇格▼法学部：鎮目征樹・横山久芳／経済学部：鈴木亘／文学部：F ITZSIMONS=Andrew Joseph／教職課程：長沼豊

准教授に昇格▼法学部：佐瀬裕史

【新任教員】

教授▼文学部：伊藤良子・滝川一廣／理学部：岩田耕一・岡田哲二・安達卓・清末知宏　特別客員教授▼法学部：青木英憲・薬師寺克行／経済学部：渡邉修士・八塩圭子　准教授▼文学部：小島和男

【退職】

▼文学部教授：左近司祥子／法学部特別客員教授：髙島肇久／経済学部特別客員教授：吉野源太郎

【役職】

▼副学長：宮川努・持田邦夫／法学部長：紙谷雅子／経済学部長：上田隆穂／法学研究科委員長：常岡孝好／政治学研究科委員長：中居良文／専門職大学院法務研究科長：野坂泰司／経済学研究科委員長：神戸伸輔／経営学研究科委員長：鈴木恒夫／法務研究科主任：大橋洋一／法学科主任：櫻井敬子／経済学科主任：三井清／経営学科主任：遠藤久夫／英語英米文化学科主任：矢作三蔵／ドイツ語圏文化学科主任：高田博行／フランス語圏文化学科主任：野村正人／心理学科主任：竹綱誠一郎／物理学科主任：田﨑晴明／化学科主任：秋山隆彦／数学科主任：松本幸夫／生命科学科主任：芳賀達也／アドミッションセンター所長：宮川努／教務部長：宮川努／学生部長：荒川一郎／計算機センター所長：坂本孝治郎／外国語教育研究センター所長：高柳信夫／東洋文化研究所長：岡孝／国際交流センター所長：水野謙／学芸員資格取得に関する委員会委員長：有川治男

（敬称略）

**第4回就職セミナー**

「日経講座ガイダンス」

日時：7月1日（水）午後6時～
場所：西5号館B1教室
講師：日本経済新聞社

---

## お詫びと訂正

第228号総合面において、誤りがありました。関係者の方々に深くお詫びするとともに、以下の通り訂正いたします。

「平成20年度就職状況」表　（内定者数が2桁の企業）
誤：（株）学習院→正：学校法人学習院

「平成21年度学習院大学入試結果」表　注意書き部分
誤：合格者を含む→正：入学者を含む

同記事　文中67行目
誤：教職員向け→正：高校教員向け

学習院大学新聞社

---

あなたは今までボランティア活動に参加したことはあるだろうか。今回は、学生が行うものとして親しみやすい児童福祉ボランティアに焦点を当て特集する。ボランティア未経験者やこれから活動していく人にもボランティアを身近に感じてもらうため、役立つ情報を提供したい。

# ボランティア 学生の経験は

我々学生は、自由に使える時間を多く持つ。では、その時間の使い方の一つを、ボランティアに充てる人はどのくらいいるだろうか。黎明会館で約200人の学生に、まずはボランティア全般の意識調査を行ってみた。

はじめに、ボランティアをしたことがあるかと問うと、経験者と未経験者の比率は拮抗しているあることが判明した。参加した学生が、きっかけとして一番に挙げていたのは「学校の行事に組み込まれていたから」というもの。どうやら授業の一環として、ボランティアを取り入れる中学校や高校が多数あるようだ。

また、社会貢献のために、自分から積極的に参加した者も少なからずいた。

次に、ボランティア経験者に行った内容で、最も多かったのは、地域清掃・エコ活動である。同じく、駅前での募金の呼びかけ等も、ボランティア経験者に、まだまだ上位を占めていた。他方で、ボランティアをしたことがない人の回答を見ると、契機がなかなかつかめていない、とのお目立ってしまっている。学校などが企画をしない場合、自分から興味を持たない限り、これらの機会は得られないのかもしれない。

では、本題の児童福祉ボランティアについてはどうだろうか。集計したところ、約10%の学生が、何らかの形で経験したことがあると返答した。その理由として、やはりの多くは学校のプログラムの一つだったということ。一方で、自らが所属した福祉系サークルの活動で、との意見も見られた。そしてその内容は、児童のお世話が最も一般的なようだ。他にも、自作の人形劇を披露するという、ある、児童と接すること自体が楽しかったからという。同時に、もっとやってみたいと考えた者の理由として、児童福祉ボランティアに対しては、「学校の行事に組み込まれていたから」という、やはり学校の影響が関わっていたことが伺えた。

さらに、児童福祉ボランティア経験者に、まだまだやりたいと尋ねると、約90%の者が「はい」と答えた。大変さを感じたものだった。

人形劇を披露するという、微笑ましいものも挙げられていた。

半の人が、子どもが好きで、児童と接することが楽しかったからという。同時に、もっとやってみたいと考えた者の理由として、やはり学校の影響が関わっていたことが伺えた。

山の実りを生み出してくれるはずだ。（大槻彩句）

# 特別視せず 始めの一歩を

本学にも児童福祉ボランティア活動を行う学生の団体がある。現在、約60名の部員が所属する社会福祉研究会だ。今回は、その委員長である内藤隆輔さん（済3）にインタビューを依頼し、ボランティアに携わる学生の意見を聞かせてもらった。

社会福祉研究会は、主に二つの学外活動を行う。一つ目は、請事例より親元を離れ、施設で過ごす児童に勉強を教えたり、一緒に遊んだりする学習ボランティア。二つ目は、軽度の知的障害を持つ子どもが集う「ほほう子供会」での、社会的自立の援助を目的とした訪問。どちらも週1回訪れる。

では、児童福祉ボランティアに励む日々はどのようなものなのだろうか。

内藤さんは「子ども達は、純粋な心で接してくれるので、巨人どころか素直になり、心が洗われます」と笑顔を見せた。一緒に過ごしているうちに、その可能さは増すのだという。一方で、児童の意思疎通がうまくいかず苦労することも、しばし内藤さんは、ここでへこたれてはいけないと奮起する。「悩んでいたら『巨人が笑む』ことが大切だと気付けました。落ち込んでいる人に相手をされても、子ども は嬉しくないでしょう。明るく、取り組んでいこう。」と、児童と接する喜びに気付かされたのだ。


笑顔溢れる子ども と内藤さん（左）

また、何故ボランティアをするのか、質問すると「僕は、相手のためだけにしているわけではありません。人助けをすることで、自身も何か学び、成長するきっかけを得られたら、と考えています」との返答をもらった。そんな内藤さんは、一便宜の活動を、特殊なことだと思ってほしくないのです」と力強く伝えてきた。ボランティアは『非日常的行動』というイメージを持たれやすいが、それは間違いだと主張する。「例えば、通勤のゴミ拾いだって立派なボランティアです。これ、誰にでもできることですよね。」

まず、ボランティアとは何なのかを伺ってみた。今回のアンケートでは、活動が難しそうだといった意見が挙がっていた。「確かに、自己犠牲というイメージが先行してしまって、難しい と思われるかもしれません。しかし、実際にやってみると、案外そうでもない。誰でもできる活動も多くあります。」と、コミュニケーション支援助の推進なども、もちろん内容に含まれるのだ。

「最後に、これからボランティアに取り組んでみたいと思っている学生へ、メッセージを頂いた。「堅苦しくなくて、小さくても良いから始めの一歩を踏み出すことが大事です。きっかけは何でも良いのです。まずは とにかく体験してみると良いでしょう」

このように、ボランティア活動を通じて出会う人々や出来事から感化されることが、自分自身を大きく成長させられる。人心必要とされる喜びを知ることが、人生に役立つ体験を与えてくれるのだ。

「ボランティアを活用しない手はない。」

（木村明子）

# 学生が行う 利点とは

ここでは、ボランティアの講演している、その授業で教壇に立つ、本学教職課程の長沼豊教授のもとを訪ねてみる。長沼教授は、国際ボランティア学会理事なども務めており、様々な組織で活躍されている。

長沼教授は、「ボランティアを通じて、学生が自己の価値観を見つめ直すことが出来る。」と、長沼教授は、国際ボランティア学会理事なども務めており、様々な組織で活躍されている。

長沼教授は、「ボランティアを通じて、学生が自己の価値観を見つめ直すことが出来る。」と、長沼教授は、国際ボランティア学会理事なども務めており、様々な組織で活躍されている。


体験を踏まえて語る長沼教授

また、このセンターは、初めてボランティアをする人のために、講座を開催している。入門講座は月に一回開かれており、関心がある人なら誰でも参加することができる。内容は、ボランティア活動の基礎知識、活動の種類と選び方、活動上の注意点、資料提供といったことだ。様々な年代の人達が参加するので、他の人の話が聞いて参考にできるのも利点である。なお、次の入門講座は、6月29日（月）の19時～21時に開かれる。興味があるならば、一度出てみてはいかがだろうか。

それ以外にもこのセンターは、ボランティア活動団体への支援や提携、ボランティアに関する物品の図書の貸し出しを行っている。他にも、安心してボランティア活動を進めるための保険の受付もしている。このように、ボランティアセンターは、志ある人と、ボランティアを募集している人を繋ぐ役割をしているのだ。

では、児童福祉の分野に絞って、どのような施設がボランティアを募集しているのだろうか。主な例として、児童館や保育園などが挙げられる。児童館はもとを辿ると、健全な遊びを子ども達に提供し、知的障害や肢体不自由などの障害を持つ児童に、介助をしたり野外活動を施設もある。ただし、行政が養育しない乳幼児を育て、親の命を預かるような施設である。また、知的障害や肢体不自由な児童に、身に付けるなどの心構えを持つべきだろう。


ボランティアを募集する西５号館４階の掲示板

ボランティアに興味があるが、どうボランティア活動を始めればいいかわからない、とお悩みの方へ。

ボランティアを始める時、まずボランティア活動に関する情報が必要となるはずだ。その場合、ボランティアセンターに直接行くと、情報を入手することができる。さらに、本学の学生部にもボランティアに関する情報が掲示されている。

ボランティアセンターや学生部などの情報源を利用し、活動するきっかけをつかんでもらいたい。（内田聖恩）

# 活動の きっかけ作り

今回の意識調査の結果、ボランティアを行うきっかけがないとの声が多々あった。そこで、新たにボランティアを始めるきっかけ作りとして、泄殻にある豊島林運動にも票が集まっている。併せて、新たに児童福祉関連をやってみたいという意見も多い。

今まで経験がある人達にとっても、この機会にボランティアについて考え、参加してみてはどうだろうか。恐らくその体験は、新たな価値観や達成感をいろいろ、沢山の実りを生み出してくれるはずだ。（大槻彩句）

今回の意識調査の結果、ボランティアを行うきっかけがないとの声が多々あったこと。そこで、新たにボランティアを始めるきっかけ作りとして、泄殻にある豊島林運動にも票が集まっていることである。

豊島ボランティアセンターは、ボランティア募集や講座、イベントなどを行う相談機関だ。ここではホームページや月1回発行のボランティアレターなどを通じて、ボランティア情報を発信している。なお、ここのボランティアセンターだよりは学生部で配布されており、毎年本学でも数多く開催されている。

また、ボランティア活動団体への支援や提携、ボランティアに関する物品の貸し出しを行っている。

他にも、安心してボランティア活動を進めるための保険の受付もしている。このように、ボランティアセンターは、志ある人と、ボランティアを募集している人を繋ぐ役割をしているのだ。

では、児童福祉の分野に絞って、どのような施設がボランティアを募集しているのだろうか。主な例として、児童館や保育園などが挙げられる。児童館はもとを辿ると、健全な遊びを子ども達に提供し、知的障害や肢体不自由などの障害を持つ児童に、介助をしたり野外活動を施設もある。ただし、行政が養育しない乳幼児を育て、親の命を預かるような施設である。また、知的障害や肢体不自由な児童に、身に付けるなどの心構えを持つべきだろう。

ボランティアを始める時、まずボランティア活動に関する情報が必要となるはずだ。その場合、ボランティアセンターに直接行くと、情報を入手することができる。さらに、本学の学生部にもボランティアに関する情報が掲示されている。

ボランティアセンターや学生部などの情報源を利用し、活動するきっかけをつかんでもらいたい。（内田聖恩）


# 記者の眼

## この世に自分の筆跡を残す

先日、大学のとある授業で百本の和歌について話を聞く機会があった。平安時代、貴族の男女は歌を合わせる機会が滅多になかったため、和歌に秘める思いは尋常ではなかったという。男女は相聞歌という交互に和歌を送りの手紙を用いた。男性は女性に自分の思いを託した歌を送り、女性はそれに対して返答するのだ。その返歌次第で歌双方が飛び交い、いつしか相手を熱う気持ちが強まるのだろう。

とはいえ、顔も知らぬ相手を想像し和歌を詠むというのは、一種の賭ゲーム のようなものである。それはなんだか怖ろしいようでもあり、ながらスリリングな感覚でもあろう。昔の人は想像力が豊かであったに違いない。

和歌は文によって相手のもとへ届くことになる。大事な任務を再負った文には、様々な工夫が施された。例えば、男性が女性に文を送る際、香を焚き染めた紙に柳眉な文字を書き記したという。それらの手紙の合間に季節を表す木々の小枝を折ったもの（折枝）を差し入れたという記述も残っている。ただの白紙に墨で雑に文字を書き連ねただけでは、女性の心を掴むことができなかったようだ。

色男と称された、伊勢物語の「昔、をとこありけり」で有名な在原業平は、六歌仙の一人であった。だが彼はただ歌のすがわったけではなく、さりげない心遣いを取り込んだ文を女性に送り届けていたのだろう。昔の人達にとって文とは、思いを伝える切なる伝達手段であったのだ。

### 手紙で思いを伝える

文という言葉を送る形態は、手紙として今に残っている。最近では、携帯電話やパソコンなど、最先端技術が駆使され、文字は電子機器によって送信されるようになった。誰とでも円滑に連絡を取り合うことができるようになり、私たちの伝達ツールはEメールが主流となった。これに比べ、配達に頼らざるを得ない手紙は、確かに迅速性においては劣ってしまう。

しかし、手紙は時間よりも大切なものを運んでくれる。それは手書き綴られた文章から読み取れる、自分だけに向けられたメッセージのことだ。手紙という手段は、相手と直接言葉を交わすわけではない。だがメールなど明らかに異なることは、筆跡からその人の性格や心情を読み取ることができるということだ。手紙という方法は、そうなってくる。

また、手紙を書くは、便箋を選ぶ楽しさに触れ、ポストへ投函する緊張感を体験する。そして相手からの返事を待っている間には、郵便受けを覗く時の高揚感に出会えるだろう。手紙を送り、返事が返ってくるまで、一つ一つの過程に喜びを発見することができるのが、手紙の醍醐味であるのだ。

何世紀もの時を越えて、「手紙」という原始的な意思疎通を図る方法は、今も根強くの人々と手紙を書く楽しさを堪能するのも良いのではないだろうか。

（英文文学科3年　橋本茉莉花）

# Tell Me! 偉人 キング牧師

Lesson 4

## 人種差別解放の雄

アメリカ合衆国では、１月の第３月曜日は国民の祝日となっている。1929年１月15日にこの世に生を受けたマーティン・ルーサー・キング・ジュニアの誕生を祝う日だ。彼は「キング牧師」の名で広く知られている。

キングは、ペンシルベニアのクローザー神学校を卒業後、父親と同じプロテスタントの牧師となった。その傍ら、当時米国内で合法的に行われていた人種差別から黒人を開放すべく、全米各地で公民権運動を開始する。1963年に行われたワシントン大行進で、彼が残した「I have a dream」の演説は有名である。そこでキングが語った夢とは、自分の子供達が肌の色ではなく、人格によって評価される国に住めるようになるようにとであった。

そして、この彼の努力が実を結び、1964年に公民権法が制定される。建国以来200年続いた人種差別が、正式に撤廃されたのだ。同年12月10日、「アメリカ合衆国における人種偏見を終わらせるための非暴力抵抗運動」という偉業を認められ、彼は史上最年少ノーベル平和賞を受賞した。

40人目の犠牲となった遊説活動中の彼は1968年４月、凶弾に倒れました。今、私は幸せです。心配も恐れもありません」と演説を行った。しかしその晩、彼はメンフィス市内で、緊犯者の白人男性に撃たれ死にした。

キングの死後40年経った現在、まだ彼の夢が実現されているとは言えない状態である。いまだに世界中で、人種差別の問題は多かれ少なかれ存在している。残された我々に必要とされていることは、キングの遺志を継ぎ、彼の夢見た理想郷を作る努力をすることだろう。

（周防和明）

# 編集後記

以前から興味はあったものの、なかなか扱う機会がなかった児童福祉ボランティア。今回、児童福祉を初の口にした企画を立てたのは、学生部でも企画を紹介した長沼教授の授業がきっかけであった。

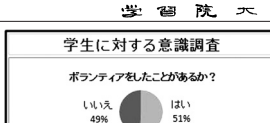
先生の講義で、ボランティアとは「奉仕」や「施し」といった概念から程遠い活動なのだと知った。むしろ、過去には、自分自身の成長を振り返り、自己を知ることが出来ることなのだ、と思っている。

みな、長沼教授の自身も、高校時代に児童福祉がボランティアを始めたという。

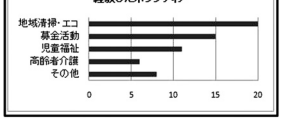
「そんな人々は、ボランティアセンターや学生部などの情報源を利用し、活動するきっかけをつかんでもらいたい。（内田聖恩）

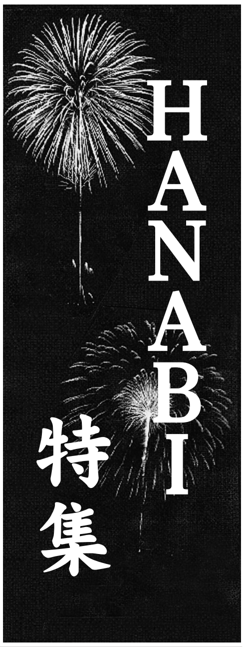
学生に対する意識調査

ボランティアをしたことがあるか？




経験したボランティア





# HANABI特集

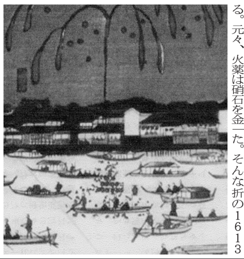
夏の風物詩といえば花火だろう。時として、日本人の心とまで言われる花火だが、その歴史や種類は意外と知られていない。そこで今回は、そんな花火の様々な魅力を、花火師の方へのインタビューを交え、多方面から紹介したい。

## 江戸時代に根付く文化

心地良い夜風の中、祭りで浮き立つ心を、さらに頂点へと引き上げる花火。夏空に咲く、大輪のような迫力と華麗さは、多くの人々を感動させてきた。その歴史をたどってみよう。

まず、原料として欠かせないのが火薬だ。そのルーツは古代中国にさかのぼる。元々、火薬は硝石を金属に変化させる錬金術で発見され、のろしとして活用されていた。やがて6世紀頃、研究を重ねる過程で、花火が発明された。

日本には、1543年にポルトガル船により種子島へ鉄砲と共に、火薬が伝来。だがしばらくは、火薬は軍事目的のみで使用された。そんな折の1613年、平戸に商館を作った英人のジョン・セーリスが、国王の国書を携えて徳川家康に謁見する。その際に、花火を見せたのだ。史料によれば、現代にある技巧的なものではなく、噴き出す火の粉が散るものであったらしい。これが、日本での花火第一号だ。このようにして外国産の花火は輸入され始めたが、和花火の登場にはまだ及ばない。



三代歌川広重「東京開化三十六景　両国之大花火」1874年
山口県立萩美術館・浦上記念館所蔵

江戸の元禄時代に入ると、町人文化が開花し街作りも活気付いてくる。戦がなくなり、戦国時代までの下級武士らも町人社会に仲間入りした。火薬の扱いに長けている彼らは、花火師に転身し、日本花火の誕生に一役を担ったのである。そんな彼らが初期に手掛けたのは、線香花火だ。

一方、同時期に大和の篠原村から弥兵衛という男が江戸へ出稼ぎに来た。彼は早速、日本橋横山町に店を構え、おもちゃ花火を売り始める。これは線香花火より幾分大きな花火だ。次第に江戸では花火が娯楽として人気を博す。しかし、そのせいで火事が頻発し、幕府から使用禁止のお触れが出る程であった。

それでも、弥兵衛の花火は売れに売れた。その繁盛ぶりから、彼は今日まで十三代続く鍵屋を創業。屋号の由来は、鍵屋が元々信仰していた稲荷の狐である。稲荷の前に置かれている狐の一方が鍵、他方は玉をくわえているからだ。

時は経ち、1732年に関西では飢饉、また関東ではコレラが流行し多くの死者が出る。そこで翌年、八代将軍の吉宗は霊の慰めや悪霊退散を願って、両国大川の水神祭りを行った。この川は、当時の夕涼みスポットとして、屋台や納涼船が往来する盛り場である。初日に大花火を打ち上げたことを契機に、年中行事の「両国川開き」が旧暦5月28日に設定された。有名な隅田川花火大会は、ここに根源を見て取れる。

さて、花火を見る時の掛け声と言えば「たまや〜」ではないだろうか。この「たまや」は、鍵屋の番頭であった清七が暖簾分けをして両国吉川町に「玉屋」の号を掲げたもの。以降、川開き大会で、両者は上流と下流に分かれて競演し、和花火に一層の発展をもたらした。観衆の間では、上流の玉屋に軍配が上がっており、現代の掛け声はその名残なのだ。ちなみに屋号は、先に書いた稲荷の狐にいわれがある。

しかし、1843年に玉屋は火事に見舞われ、江戸追放の処分を下される。こうして、玉屋は一代かぎりで幕を下ろすことになった。残念ながらこの後、栄光を取り戻せなかった。

以上が、日本花火誕生の軌跡である。意外に起源を知らなかった人も多いのではなかろうか。今年の花火大会は、歴史を背景に、一味違う魅力を感じることだろう。（早川結）

## おもちゃから打ち上げまで

「花火」と聞いて最初に頭に浮かぶのは、どのようなタイプのものだろうか。国内外を問わず様々な種類が存在するが、大別すると、おもちゃ花火・仕掛け花火・打ち上げ花火がある。そこでここからは、それらの種類について具体的に見ていく。

日本人に最も馴染みのあるのは、やはりおもちゃ花火だろう。これらは購入や使用に免許や資格が必要なく、誰でも手軽に楽しめる。線香花火などの手持ちのものが代表的であるが、ロケット花火のような小型の打ち上げ花火も含まれる。それだけではなく、ねずみ花火やクラッカー、噴出花火など、種類は実に多彩だ。小さい作りであるおもちゃ花火が数多く普及しているのは、日本人の手先の器用さに起因しているのかもしれない。

仕掛け花火とはその名の通り、何らかの仕掛けを施したものを指す。おもちゃ花火とは違い、遥かに規模が大きいのが特徴だ。銀滝とも呼ばれるナイアガラは、その中でも特に有名なものである。これは、一本の長いワイヤーに無数の細長い筒状の花火を吊り下げ、点火によって一斉に火の粉を落とすというもの。大量の火花が豪快に落下する様は、まさに圧巻の一言である。

また、数多い仕掛け花火の中で花形とも言えるのが、スターマインだ。勘違いされがちであるが、これは花火そのものの名前ではなく、打ち上げ方法を指す。スターマインは、花火を何発も組み合わせて連続で打ち上げたり、複数のものを同時に打ち上げたりする。それによって一つのテーマを描き出し、ショーの盛り上がりを一層引き立たせる効果を持たせるのだ。加えて、広範囲に渡るワイドスターマインや、船を使って打ち上げる湖上・海上スターマインというものもある。どれも短時間に大量に打ち上げるので、大会の目玉としてクライマックスを飾ることが多い。

そして、日本の夏と言えば、打ち上げ花火を置いて他にはない。構造としては、玉という紙製の球体に、星と呼ばれる火薬の塊を詰めてある、といったものだ。打ち上げと同時に導火線に点火され、玉は所定の高さまで達する。その後、火は玉内部まで及び、玉が破裂して中に入っていた星が空中に拡散する。それ以上の詳細な技術は秘伝とされ、花火師の間で代々受け継がれているそうだ。

この打ち上げ花火は、割物・ポカ物・型物の三つに分類される。この中で最も代表的な打ち上げ花火である割物は、破裂した時に星が球状に飛散する、といった作りになっている。中でも、星が菊の花のように尾を引いて広がるものを菊物、引かないものを牡丹物と呼ぶ。打ち上げ花火と聞いて私達が最初にイメージするであろうものが、この割物である。

ポカ物は、星が飛散せず上空で玉が割れて、中に入っている細工が落ちてくる、という仕組みだ。例としては、柳や蜂などの種類がある。割物の変形である型物は、空中に円などの形を映し出す花火だ。開発当初は単純なものだけだったが、現在では文字やキャラクターの顔までも表現できるようになった。

このように、花火は非常に多様な顔を持っていて、我々の目を楽しませてくれている。どの種類もそれぞれ違った良さがあり、花火見たさに毎年夏が来るのを心待ちにする人も多いだろう。私達が生きる現代には、楽しく真新しい娯楽が数多く存在する。しかし、だからこそ花火のような昔ながらの古き良きものを味わう心も、忘れたくないものである。（宮下秀毅）

柳型のスターマイン

## 読書

## パラドックス13

### 生きていく意味を考えて

突然、生活が困難になったらどう生き抜くか。冷静に行動するか、感情的に行動するか。どちらかが正しいという答えはない。本書は、そんなパラドックスな世界を描いた小説だ。

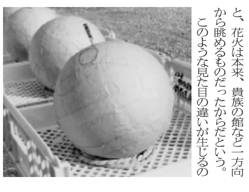
3月13日13時13分13秒、主人公の冬樹を始めとする、13人が〝P−13現象〟という謎の現象に襲われ、人々が消えた世界に迷い込んでしまう。この世界に存在する人は、わずか13人。赤ちゃんから老人まで様々な年齢がおり、全員で協力して生き抜いていくしかない。まずは学校で暮らし、次にホテル、そして最も設備の整った総理官邸を目指して、限界ぎりぎりの生活を余儀なくされる。この過酷な世界では、彼らだけのルールが生み出された。例えば、食事は決められたもの以外は食べられず、貴重な食料は金庫で管理されている。時に人殺しが善と考えられる場合もあった。

背景として、破壊されていく東京が描かれており、高層ビルの倒壊などリアリティを感じる場面が多い。また本書では、異常気象や地震が頻繁に見られる。これらは現在の日本にも当てはまることであり、まるで未来の日本の姿を目の当たりにしているかのようであった。さて、この13人に共通することは何か。そして、彼らの運命はどうなるだろうか——。

絶望の末に死を選びたくなるような環境の中、冬樹を始めとする13人は共に助け合う。世代の異なる仲間とでも同じ生活することで信頼が深まっていき、冬樹の行動で人の命が救われることもあった。そんな彼らの姿に、励まされる人も多いはずだろう。仲間を信じることや生きようという意志は、どのような世界においても大切になる。是非一度手にとって読んで頂きたい。（華）

（東野圭吾著　毎日新聞社刊　税込1785円　2009年）

## 花火の古今東西



日本の夏の夜空を、鮮やかに彩る花火。実は日本と外国の花火では、異なる特色があるのをご存知だろうか。

まず、私達が「花火」と聞いてイメージする「菊」や「牡丹」といった代表的な日本の打ち上げ花火は、立体的に丸く開くという特徴がある。これは元々、日本の花火が河川で打ち上げられるものだったことに由来している。つまり、観客が四方から見ていたため、どの方向からでも丸く見えるように作る必要があったのだ。これに対して外国、特に欧米の花火は、柳の枝が垂れるように発光したり、楕円形に開いたりするものが多く、必ずしも球体に開くわけではない。何故かと言うと、花火は本来、貴族の館など一方向から眺めるものだったからだという。

このような見た目の違いが生じるのには、その構造に関係がある。日本の花火玉は開いた時と同じく球体である。一方、欧米の花火玉は円筒形で、中に詰める火薬の形や詰め方も異なるので、開き方に差が出るのだ。打ち上げた時も、日本の花火は一発でも迫力や重厚感があるが、欧米のものは個々ではいまいち迫力に欠ける。しかし、スターマインのように連続して、あるいは同時に多数打ち上げることで、外国製もまた違った趣を醸し出す。

また日本では、花火大会と言えば花火がメインである。そこでは、誰しも花火の一つ一つをじっくり見るものだ。しかし欧米では近代以降、花火は客寄せに使うもの、という性格が強かった。遊園地やイベント会場などで、その場所に人を呼ぶためのアトラクションだったのである。そのため、音楽に合わせてリズミカルに何発も打ち上げるなど、全体で一つのショーとして楽しめるように作られているのだ。

最近では、日本の花火大会でも外国製の花火が多く使われており、逆に日本の技術も海外へ輸出されている。どちらがより優れているというのではなく、それぞれに華やかさや面白みがある。今年の花火大会に出かけた際には、そんな花火の違いに注目してみるのも一興かもしれない。（美馬香織）

## 花火の匠に聞く

では、花火師の方はどのような思いで、美しい花火を打ち上げているのだろうか。1914年（大正3年）から続く、東京で最も古い花火問屋、山縣商店の花火師である谷古宇正啓さんにお話を伺った。

まず、花火大会における花火師の役割は何なのだろう。「花火師は、まず花火の玉を筒に仕込んで、それを打ち上げ場に設置します。そして導火線などを繋げ、打ち上げるのが仕事なのです」。この打ち上げ方にも、様々な種類がある。代表的なものは、大正時代から続く「早打ち」だ。通常、筒一本につき一つの玉を仕込むところ、これは一本の筒で複数の花火を次々に打ち上げる。「これだと、筒の本数が少なくて済むんです。けれども、危険度が増すので、早打ちには熟練した花火師がつきっきりで行うんです」。

また、実際に打ち上げに至るまでには、大変な準備が必要だ。大会に備え、平日は花火の玉を筒に詰める作業を行うのだそう。「一人が何万発もの仕込みをするので、この時期の花火師は可哀そうなくらい忙しいですよ。7月から8月の間で、ほぼ一年分を稼いでしまいますから」。さらに、週末は大会を掛け持つこともあるという。では、大会がない冬の間は何をしているのだろうか。「シーズンが終わると、また翌年の花火を作り始めます」と、花火師は夏の大会に向け、一年中大忙しのようだ。

それ程頻繁に花火を打ち上げているからには、ひやりとした体験も多いという。「年に何度か、上がりが低くて花の中に入ってしまいます」。花、つまり花火が空高く上がらず、花火師が居る場所で開いてしまうのだ。「大概は火の粉は当たらないけれど、もし当たったらもちろん火傷をするでしょうね。原因は一概には言えませんが、玉の製品不良や、打ち上げ火薬のコンディション、人的ミスだったりします」。花火師は短期間で膨大な量の玉を仕込むため、打ち上げ火薬の入れ忘れには、特に注意が必要とのこと。また、全国で毎年一度は、全く打ち上がらずに下で爆発してしまう事故も起きるのだとか。最近では電気による遠隔操作で、安全性にも配慮している。だが、谷古宇さんは「私達は結構危険な打ち方も好きなんですけどね」と、笑いながら語る。

花火師歴18年になる谷古宇さん

そんな危険も伴う花火師になった理由は、やはり花火が好きだからだという。花火師を目指す人は、皆どこからか会社の電話番号を入手し、個人的に志願して来るのだそう。しかし、「タイミングが合って採用されても、すぐ打ち上げに関われるわけではないんです」と言うように、経験が物を言う世界のようだ。「何十年も花火師をしている方は、風の変化など、僕らでは分からないことを当ててしまうんですよ。それに皆花火好きなので、定年後も大会に来て、現場を管理してくれるんです」と谷古宇さんは話す。引退したとはいえ、熟練している彼らは即戦力になるそうだ。

さらに、花火を見る際のポイントを聞いてみた。「大会ごとに、花火のプログラムを比較すると良いでしょう」。打ち上げる花火の種類は全て花火師に任されている。そのため、大会を請け負った花火師によって特色が出るのだ。また、「その年に考案した新作花火を、密かに打ち上げることがあるんです。花火大会を活用して、どのような感じに開くか見ているんですよ」と教えてくれた。

花火師は体力的にもきつく、危険な仕事だ。「それでも、想像通りに花火が打ち上がった時や、お客さんに喜んでもらえると嬉しいですから辞められません」と、谷古宇さんは話す。私達の歓声は、花火師にも聞こえているのだ。根っからの花火好きが打ち上げた花火が、私達を感動させる。彼らの渾身の花火を、今年もまた見られる日が待ち遠しい。（福田美緒）

企画　福田美緒
レイアウト構成　市川美奈子
取材　緒方花穂里
菊岡真衣
中島圭佑
早川結
美馬香織
宮下秀毅

## アート日和　美術展こらむ

MUSEUM ISLANDS

## 日本の美術館名品展

東京都美術館（上野）
開催期間：４月25日〜７月５日
開室時間：９時〜17時
（入室は16時30分まで）
休室日：月曜日
展覧会公式ホームページ
http://www.museum-islands.jp

## 全国の傑作が大集結

今年は、美術館連絡協議会の創立25周年にあたる。それを記念して、東京都美術館にて、全国の公立美術館の名品が一堂に会する企画展が催された。品数は、教科書に掲載されている作品から門外不出の物まで、合計220点にも上る。内容もマティスやモネ、ピカソなどの西洋絵画の巨匠達が揃っている。さらに、彼らの影響を受け、日本近・現代洋画の基礎を築いた藤田嗣治や横山大観、日本画の竹内栖鳳らも並ぶ。また、版画・彫刻では、高村光太郎やジャコメッティなど、豪華な顔ぶれだ。まさに、日本のコレクションの到達点を示す「夢の競演」という名目にふさわしい展示会である。

今回は、北海道から沖縄まで、124館の加盟館のうち100館が出展。各館の目玉を出品しているため、その美術館の掲げるテーマが感じ取れる。協議会の理事長である、世田谷美術館館長の酒井忠康氏の挨拶にも「全国の美術館を旅するように鑑賞してほしい」とあった。その言葉通り、訪問者は散歩をするように、思い思いの作品のもとへ足を運ぶ。また、展示品の中には鑑賞疲れの目を癒す、優しい色調の絵も置かれていた。爽快な水辺の風光を放つ、セザンヌ作の『水の反映』は、その最たるものだろう。

さて、本展の特長として西洋作品・日本作品の両方が一度に鑑賞できる点も挙げられる。それにより、両者の質感の違いが感じられるはずだ。例えば女神像では、肌の描き方に異なる印象を受ける。大理石のような肌の西洋の女神に比べ、日本画家の描く女神の肌は、生身の人間のような肉感が感じられた。このような差異を比べてみるのも面白いはずだ。

多くの来館者の足を止めたのは、ミレー作『ポーリーヌ・V・オノの肖像』であろう。モデルは、夭折した彼の妻である。その薄幸さを示すかのように、潤む瞳が印象的であった。

梅雨になると、気分が沈みがちになってしまう。だが家に籠らず、この機会に外へ出て美術品に触れてみてはいかがだろう。

（菊岡真衣）

ジャン＝フランソワ・ミレー
《ポーリーヌ・V・オノの肖像》
1841－42年頃　山梨県立美術館所蔵

## CAMPUS GUIDE

●写真部
「6月展」
日時：6月18日（木）〜
6月20日（土）
10時〜18時
（最終日のみ　17時閉室）
場所：輔仁会館302・303
料金：無料
内容：年度が変わり、新入生を加えた初めての展示です。学内の展示ですので、空き時間などに是非おこしください。

●漫画研究会
「第64回展示会」
日時：6月8日（月）〜
6月13日（土）
時間は掲示参照
場所：富士見会館3階ホール
土曜のみ同4階
403・404
料金：無料
内容：漫画原稿、イラスト等の展示、会誌の「ぺんの樹」の販売も行っています。

●落語研究会
「春のめじろ寄席」
日時：6月25日（木）
開場　17時
開演　17時30分
場所：池袋豊島区民センター
料金：無料
内容：―抱腹絶倒―
落研、春のビックイベント「春のめじろ寄席」が今年も開催される運びとなりました。どうぞ寄席にいらして、爽やかな江戸の世界に浸って下さい！

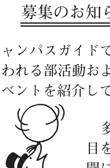
●観世会部
「めだか舞台」
日時：6月28日（日）
13時〜17時頃まで
場所：武田修能館
料金：無料
内容：一年生の初の舞台です。入退場自由となっております。皆様、是非いらして下さい。

社告

## CAMPUS GUIDE

### 募集のお知らせ

キャンパスガイドでは、学内外で行われる部活動およびサークルのイベントを紹介しています。



多くの学生が目を通す大学新聞にあなたが所属する団体の情報を掲載してみませんか？

学習院大学新聞社　3面

# 四大戦優勝を見据えて

## アメリカンフットボール部

# チームの底力見せ圧勝

5月16日、アミノバイタルフィールドにて、アメリカンフットボール部の四大戦初戦である、対成蹊大戦が行われた。序盤こそは相手の優位に試合が進むが、主導権をすぐさま奪う。その後は攻撃の手を緩めることなく、31—8と鮮やかな勝利を挙げた。

今年のアメフト部のテーマは「爆発」だ。昨年、彼らは無念の3部降格を喫した。一方、成蹊大は2部への昇格を果たしている。2部昇格が目標である本学にとって、何としても勝ちたい相手である。「今まで本学は、スロースターターだと言われてきました。ですが、それを改善し、試合前から相手をひるませる程の『うるさい』チームでいたいです」と名取純主将（数4・まこと）は話す。

試合当日、曇り空の中、ウォームアップをする本学選手達の大きな声がフィールド中に響き渡る。立ち上がりは選手がまだ調子を出せず、相手のファーストダウンが続き、押され気味であった。だが、時間が経つにつれて選手達の動きが噛み合っていく。本学がパスプレーとランプレーを使い分け、じわりじわりと陣地を進める最中に、第1クオーターは終了した。両チームのスコアはまだ動くことはない。

しかし第2クオーターで、ゲームが徐々に動き始めた。本学は出だしにランニングバック（RB）の与安巧選手（法3・よやす）がタッチダウンを奪うと、続くキックも決め、7—0を記した。また、本学先制後の成蹊大のパスをラインバッカー（LB）の林修平選手（独4）がインターセプトをする。相手選手の間をかいくぐり、敵陣へ深く切り込んだ与安選手が再びタッチダウンを決める。キックの得点も加え、14—0とリードを広げ、チームは一段と盛り上がっていく。さらに、続く相手の攻撃のパスをディフェンシブバック（DB）の瀧川力選手（法3）がカットする。得点には繋がらなかったが、本学はますます勢いづく。

ハーフタイムを終え、本学のオフェンスから第3クオーターは始まった。RBの植田将広選手（法4）の巧みなボール運びで、敵陣の10ヤード地点まで攻撃を進める。そして、フィールドゴール（キック）で3点を追加し、17—0となった。次いで、相手が第4ダウンのパント（領地回復のキック）ミスをする。本学はそのままボールを一気にエンドゾーンまで運び、見事なタッチダウンを決める。第3クオーター終了時には、24点という大きな点差が開いていた。

本学優位の中、第4クオーターまで試合は進む。本学の攻撃が長く続き、精度の高いパスを武器に、RBの福田昇太選手（政2）が得点を重ねた。キックも成功し、31—0とする。そこで油断が生じたのか、成蹊大に初のタッチダウンを許してしまったものの、終わってみれば31—8で本学の快勝であった。

勝利を掴んだ名取主将と、石渡秀介主務（法4）は「初戦ということもあり、序盤は選手の動きが硬かったですね。ですが、相手が想定していた通りの傾向で試合をしてきました。なので、落ち着いてからは、チームの組織力とコミュニケーション力が、自分達らしい連携のきいたプレーを生みました。四大戦優勝を目指し、これからも勝ち続けたいです」と語ってくれた。その言葉通り、フィールド上で爆発を繰り返し、多くの勝利を掴みとってほしい。　（原田富美子）


激しいディフェンスに怯むことなく攻撃を仕掛ける福田選手

# 初戦、大差で快勝

## ラクロス部女子


勇猛果敢な攻めを見せる本学選手

5月10日、武蔵大学朝霞グラウンドにて、女子ラクロス四大戦の初戦、対武蔵大が行われた。試合前に小堀朗子主将（政4）は「この試合に勝つことは、私達が日本一になるまでの一戦でもあります。気持ちを込めて戦い、最後は笑顔で終わります」と意気込んだ。また、部員全員で円陣を組み「go to win!」とお決まりの掛け声でチームも一丸となった。

ホイッスルと共に前半戦が始まると、本学は序盤から積極的に攻めていく。ボールを奪い一気にゴール前まで攻め込むと、試合開始わずか2分で、西原有美選手（政3）が先制ゴールを決めた。そのまま勢いに乗り、素早いパス回しで次々と得点を重ね、立て続けに5点を獲得する。その俊敏さは、相手を圧倒し一瞬の隙も与えない程だ。

こうして流れを掴むと、小まめな選手交代で、チームのコンディションを調整していく。また、センターからの辻井雅恵選手（営4）の正確なパスが生かされ、さらなる点へと繋がる。そうして本学は着実に点差を広げていった。

しかし、最初は硬くなっていた相手も中盤には動きが良くなり、ゴール前でのパスがカットされる場面が増える。さらに、最後の1分間には3本のシュートを放たれる。幸いにも失点には至らなかったものの、やや押され気味で終了。だがここまで8—0と相手に1点も許さない展開だ。

ハーフタイムを挟み、後半戦は、序盤から両者とも積極的に攻めていく。本学はボールをゴール前まで運ぶも、あと一歩の所でのパスミスが目立ち、得点へと繋げられない。そして遂に、後半開始10分、初失点を許してしまう。

だが、すぐさま木村はずき選手（政3）が単独で果敢に攻め、そのままシュートへ。見事1点を取り返す。続けて辻井選手がさらに1点を加えた。その後、武蔵大に2点を返されてしまったものの、本学は9点という大きなリードを保ったまま終盤へ突入。

選手達に疲れが見え始めると、小堀主将がチームを引き締めるためにタイムアウトを取る。再び気持ちを一つにして、ラスト5分に臨んだ。勢いを取り戻すと、最後は高橋亞希選手（日4）がシュートを決め、13—3と大差で勝利を収めた。

試合後に小堀主将は「最初に相手の心を折ることで、攻めのプレーをできたのが勝因だと思います。部員一同、日本一への信念を忘れず、次の試合にも臨みたいです」と話した。彼女達の勢いはますます加速するばかりだ。　（春山紗樹）

# FLASH BACK

**少林寺拳法部**
**清水　英行主将（物３）**

## 武道から学ぶ強さ

武という字は、戈（ほこ）を止めると書く。ここから、武道というのは争いを止めるためのものであることが分かる。その中の一つである少林寺拳法は、中国の少林寺から日本人が称号を授かって武術を持ち帰り、空手や柔道などの要素を取り入れてできた拳法である。その少林寺拳法部の清水英行主将（物3）にお話を伺った。

中・高と剣道を続けてきた清水さんが、大学で少林寺拳法を始めようと思ったきっかけはジャッキー・チェンだった。誰もが惚れ惚れとするような彼のアクションに、清水さんも魅了されたようだ。しかし、少林寺拳法に触れていくと、他の格闘技とは違った面にも気付かされた。それは、相手を倒すためにではなく、守るために強くなるという護身術の思想である。「格闘技と聞くと、力技で相手を傷つけるイメージですよね。ですが、少林寺拳法は外傷を与えずに、最小限の動きで敵の急所を突いて攻撃する武術なんです」と教えてくれた。また、試合はカンフーアクションのような決まった動きをして、形・気合い・技の鋭さなどによって点数が付き、勝敗が決まるそうだ。

そこで、一番心に残っている試合を聞いてみると「今年に4年生とペアで出た関東大会二段の部の試合ですね。6位入賞という結果だったのですが、先輩と絶対にメダルを取ろうと誓って臨んだ大会だったので、悔しい気持ちもありました」と話してくれた。やはり、先輩と出場した最後の試合ということで、その思い出は彼の胸に深く刻まれているようだ。

少林寺拳法を続けてきて、本当の強さとは、相手を打ち負かすことだけの強さではないと思うようになったという清水さん。今後、競技を続けていく上での抱負として「これからの練習は、物理学を取り入れたり、武道の心をしっかり見直すことで、型だけでなく、護身術の理念の深い部分から学んでいくつもりです。そこで、部員達にも少林寺拳法を楽しんでもらいたいですね」と語ってくれた。清水さんにとって、今年は競技生活最後の年。悔いの残らないように精一杯頑張ってほしい。　（石井康祐）

# 強敵に苦戦

## ホッケー部女子

5月10日、早稲田大学東伏見グラウンドにおいて関東学生リーグ1部、対早稲田大戦が行われた。試合に臨むにあたり、土田梨奈主将（日4）は「強豪校が相手なので、一つ一つのプレーに全力を尽くします」と話してくれた。

試合序盤、必死の守りで早稲田大の猛攻に耐える本学。そして5分過ぎには速攻を仕掛け、左サイドを起点に相手ゴールへと迫る。だが相手DFに阻まれ、シュートまでは持っていけず先制点とはならない。逆に、その後は再びピンチにさらされる。前半12分にはゴール前からのペナルティコーナーを与え、そこから失点してしまった。

先に点を許したことで、攻めるしかない本学。何度かカウンターを試みるが、パスが繋がらず、良い形を作ることができない。その後も本学は中盤でボールを奪われてはピンチを招く、という悪循環から次々とゴールを割られてしまう。GKの山田咲季選手（仏2）を始めとして守備に奮闘するが、5点ビハインドで前半を折り返すことに。

後半も早稲田大は攻撃の手を緩めてはくれず、ゲームを支配される。右サイドを崩されゴール付近のサークル内へ侵入を許す場面が目立ち、失点を重ねてしまう。次戦以降に繋げるためにも、1点でも多く返したい本学。終盤、自陣でボールを拾った小平麻未選手（政3）が前線へ長いパスを通す。だが味方との呼吸が合わず、決定機には至らない。こうして、本学は最後まで得点を挙げられず、0—9で敗戦を喫した。

試合後、「守備でミスが多く、修正できませんでした。しかし課題も多く見つかったので、次に生かしたいと思います」と土田主将は振り返った。この悔しさを糧に、彼女達は少しでも上を目指す。　（宮川雅志）


土田主将（右）は相手と競り合う

# 終盤の逆転劇

## サッカー部

5月17日、立正大学熊谷キャンパスにて、1・2部春季対抗戦第3戦目が行われた。相対するのは上智大である。

小雨の降る中で、ホイッスルが会場中に響いた。開始早々、MFの永田直樹選手（政3）はパスを受け積極的にシュートを狙うが、GKにセーブされ、得点に至らない。本学はその後もパス回しを駆使してゴールに迫るが、なかなか得点に繋げることができない。

一方、ディフェンスにおいてはシュートを打たせないよう相手を封じ込め、付け入る隙を与えぬ動きを見せる。DFの氏原聡太選手（営3）はボールを次々とカットし、ゴール際に相手が侵入するのを防いだ。

だが前半39分、ペナルティエリア内でファールを犯し、PKを与え先取点を取られてしまう。その後選手達に焦りが見え始め、本学は思うようにボールを繋げることができなくなる。巻き返すことができないまま、0—1で前半を終えた。

小雨が止み、雲間から太陽が見え隠れする中、後半が始まった。前半のリベンジを果たすべく、ボールを追うが、相手に攻められる展開が続く。そんな中、GKの竹下雅之選手（政3）は声を張り上げ、相手の鋭いシュートを受け止め、チームのピンチを救った。本学が調子を取り戻す中での後半30分、相手選手がこの試合2枚目のイエローカードで退場し、本学の勢いが増す。そして後半41分、ゴール前で廣田宜久選手（済3）からのパスを受け、永田（直）選手が渾身の力を込めてシュートを決めた。遂に1—1の同点とし、歓声が湧き上がる。

このままドローかと思われたロスタイム、ドラマはすぐに幕を閉じはしなかった。相手DFの裏に抜けた兼平秀人選手（独2）がシュートを放つ。これが決まり、その場の雰囲気を一気に興奮へと導き、2—1で本学が勝利を掴んだ。

試合後、永田卓也主将（法4）は「勝てたことは嬉しいのですが、簡単なミスが目立ち、相手に得点を許してしまいました。今後は1部で上位を目指せるよう、努力していきたいです」と意気込んだ。最後まで諦めない、という選手達の気持ちが今回の勝利をもたらしたのだろう。今後もさらなる飛躍を目指してもらいたい。　（橋本茉莉菜）


敏速な動きでドリブル突破を図る片石選手（左）

## TOPICS

その他の試合結果

【硬式野球部】
▼関東学生春季3部リーグ戦▽対上智大0—1　2—3▽対成蹊大3—2　6—5

【ソフトボール部女子】
▼関東学生春季2部リーグ戦▽対創価大8—0　対中央大11—6　対日大4—1　対明治大4—7

【アーチェリー部】
▼関東学生リーグ1部2部入れ替え戦▽対成蹊大　3738—3667

【籠球部女子】
▼関東大学女子選手権トーナメント戦▽対桐蔭横浜大67—112　対和光大121—36　対武蔵野大57—60

【少林寺拳法部】
▼関東学生大会▽男子二段の部　6位▽男子初段の部4位▽男女単独段外の部4位（すべて敢闘賞）

## デスクの片隅

学習院大学新聞社に所属して三年目を迎える。いまだに細かな仕事が板につかない私だが、文章を書くことは誰よりも好きな自信がある。しかし、編集作業というのはただ記事を書くことだけが仕事ではない。割付や取材、赤入れ、見出しの考案、手配りなど、しなければならない業務は数多くある▼どれも一苦労なのだが、この中でも私は赤入れが一番不得手だ。赤入れとは、記事の添削をしたり、されたりすることである。人の思想は十人十色。文章の技巧的な誤りなら納得もいくが、自分の意を曲げるような赤入れは、されたくもないし、したくもないと思う。だからと言って、すっかり自己陶酔に浸り他人の意見を受け入れられないのは、さらに良くない▼赤入れは自分の拙さを認めて、新しいものを得る最大のチャンスでもあるのだ。毎回、自分の記事が真っ赤になって返ってくるのは大変忍びないことではあるが、これも自身の成長のためである。現実を真摯に受け止め、返却された記事を片手に今日もパソコンに向かうとしよう。　（光）

社告

4面コラム
FLASH BACK

感動のあの一戦を紙面に残してみませんか？

学習院大学新聞社
黎明会館316号室
E-mail:gakushuinpress@hotmail.com